

長谷山群集墳分布調査報告

一 はじめに

長谷山群集墳は、津市・安芸郡安濃町・同郡美里村の三市町村にまたがる長谷山（標高三二一m）山麓に築造された古墳の集合体を指し三重県下は言うに及ばず、全国でも屈指の群集墳である。この群集墳は、昭和三二年四月末の津市大字分部地区内の林道開発工事によって発見されるに至った。三重大学原始古代史部会では、直に三重県教育委員会及び津市教育委員会と連絡をとり、五月初旬に発掘調査を開始し、約六ヶ月間継続された。また、群集墳の基本調査たる分布調査も並行して行われた。この分布調査は、昭和三年まで引続き行なわれ、三百数十基の古墳が築造されていることが判明した。^①

分布調査は、昭和三七年、昭和四四年、昭和五二年にも行なわれたが、今回、我々は、いまだ調査の行なわれていない西側斜面及び頂上付近をもその調査地域とし、長谷山の全面調査を行い、明確な位置図を作製した。その結果長谷山山麓には、四六〇基の古墳が確認された。この内、石仏支群、石ノ下支群、高塚支群などは、大橋紀元氏もその存在を確認されている^②が、遺跡台帳に未登録である。尚、長谷山より東にのびる低丘陵上にも多くの古墳が見られるが、今回の報告では、それらは除外して考えたいと思う。

原始古代史部会

また、本稿中の支群名及び各支群内の古墳番号は、我々の不手際で、今回我々が新たに設定しなおしたものであり、従来の遺跡番号とは一致しないことをおわびしたい。

二 位置と歴史的環境

錫杖ガ岳に発する安濃川は、安芸郡安濃町や津市を貫流し、左に見当山丘陵、右に長谷山、及び半田丘陵を眺めながら、やや狭隘な沖積平野を形成する。

この地域は、古墳時代以前の遺跡も、納所遺跡^③をはじめ、数多く存在するが、縄文時代のものは、辻の内遺跡^④など数例にとどまる。

安濃川流域には、数多くの古墳が知られている。このうち、最古の古墳としては、坂本山古墳群^⑤があり、四世紀末葉に比定されている。

明合古墳^⑥は、双方中方墳という特異な墳形を有し、方形墳と考えれば全国九位という屈指の規模をもつ、特筆すべき古墳である。築造時期は五世紀前葉から中葉とされる。廻りには八基の陪塚が知られ、すべて方形墳である。

また、六世紀前半の築造とされるメクサ古墳群^⑦も九基の方形墳から成り、他にも同時期の堂山一号墳^⑧、日余一号墳^⑨、中相野古墳など、中流域に方形墳が集中して築造される。一方、下流域は、池の谷古墳を最大とし、鎌切一号墳^⑩、同三号墳、おこし古墳^⑪、口蓮池古墳^⑫などの前方後円墳が築造され、中流域と好対照をなしている。

六世紀前半になると、中流域にも前方後円墳が築造されるようになり、長谷山周辺にも、岡南四号墳、御屋敷跡一三号墳、殿村一号墳^⑬、そして下御供田一号墳^⑭などが存在し、長谷山群集墳に先行するものと考えられる。このうち岡南四号墳は、帆立貝式前方後円墳に近い墳丘をもつ。また、右岸に存在した君ヶ口古墳^⑮は、横穴式木芯室という特異な内部主体を持つ帆立貝式前方後円墳であり、六世紀前半の築造とされる。

その他、注目すべき古墳として、大型の横穴式石室から豊富な遺物を出土し、六世紀前半に比定される四反田一号墳^⑯、羨道部に階段状施設をもつ横穴式石室を検出し、南鮮との関連が考えられている平田A五号墳、横穴式石室に家型石棺をもつ鳥居古墳^⑰などがあり、半田丘陵には、横穴墓も造営されている。

なお、半田丘陵には、久居古窯址^⑱、藤谷埴輪古窯址^⑲などの生産遺跡が知られ、最近、方ヶ広埴輪古窯址^⑳も発見された。

三 長谷山群集墳について

長谷山における古墳の分布は、圧倒的に東側斜面に多く、ほとん

どが径一〇m前後の小円墳で構成され、古墳の現状からその多くが横穴式石室を持つと推測される^㉑。これらの古墳を大きく三二の支群に分けることができるが、この三二のグループは、あくまで平面的、垂直的な分布の外的観点に立つものであり、その支群が、支群間の築造時期、あるいは、長谷山群集墳を形成した同集団内の集団関係を正しく反映しているかどうかについては、更に他方面からの綿密なる検討が必要であろう。しかし、八割以上の古墳がすでに盗掘をうけており、その詳細を知ることが困難である。

また、三二の支群は、その規模及び立地から更に大きくAとEの五地区に分けて考えることができる(付図三参照)。以下、その地区別に若干の考察を加えてみたいと思う。

A 区(付図五参照)

安濃川下流域をのぞむ南東斜面の比較的ゆるやかな傾斜地に小規模な支群を営む地区である。この地区には一〇支群が属し、いずれも数基から十数基からなる小規模なものであり、尾根に沿って二列に整然と並んでおり、その間に墓道があったことを想定させる。また、三年作C支群の二号墳と三号墳の両墳をもって、前方後円墳とする考え方があったが、測量(S五五・一〇、S五六・三)の結果、円墳二基とみる方が妥当であるとの結論に達した。(付図九)

B 区(付図四参照)

安濃川中流域をのぞむ北東斜面のゆるやかな傾斜地に大規模な支群を営む地区であり、長谷山の中でも、古墳分布の最も水平的な広がりをもつ地区である。この地区には、八支群が属し、中でも大山田

A支群、坂本A支群、丸岡A支群、細山田支群は、数十基から百余基にも及ぶ大支群であり（古墳番号は付図八を参照）、この四支群で長谷山群集墳全体の六割近くの古墳数を占める。この四支群の古墳の分布状況をみると、A区の支群内での古墳が線的な分布を示すのに対し、B区では、面的な広がりを持ち、更にA区が同規模の古墳で構成されているのに対し、B区は、その支群内において、他と比べて明らかに優位に立つとみられる大きな円墳がいくつか存在する。

このような大支群の分布に関して、大橋氏は細山田支群を例にとり、その石室の開口方向から更に一五の小単位群に分けている。その小単位群は、小規模支群で考えられるのと同様に、同族的色彩の濃いものであるとし、また、墳丘規模の優劣は、その被葬者の共同体内における社会的、経済的地位のあらわれではないかと言っている。そして、これと同じようなことが他の大支群にもあてはまるのではないかとし、更にA区で述べた墓道の問題に関しても隣接する丸岡A支群と細山田支群の間に一つの「幹道」の存在が想定され、支群間同志もなんらかの関係を持っていたことも指摘している。²²

尚、分布調査中に破壊された丸岡C支群二号墳から採取した円筒埴輪の中に底部調整を施されたものが存在することが確認された。詳細については、遺物の項で述べたい。

また、大山田A支群は、昭和三年四月から同一〇月にかけて、林道開発工事になって発掘調査が行われているが、その報告は、『三重の文化』一五号でなされているので、ここでは割愛させていた

だ。

C 区（付図四・六参照）

安濃川中流域をのぞむ北斜面の急峻な尾根上及び穴倉川をのぞむ丘陵の先端に小規模な支群を営む地区である。この地区には、七支群が属し、いずれも数基からなる小規模なものであり、尾根に沿って、ほぼ同規模の小円墳が一行ないしは二列に並んでいる。

D 区（付図四・六参照）

標高一五〇m以上の山腹や山頂付近のわずかな平地を利用し、小規模な支群を営む地区である。この地区には五支群が属し、数基から十数基の小規模なものであり、単独墳がいくつか見られるのもこの地区の特徴である。

中跡山支群は四基からなり、四基とも横穴式石室を持つことが知られ、特に一号墳は天文石が取り去られているものの、石室の残存状態は良好であり、大橋氏によれば七世紀前半代のものとされる。²³これは、長谷山群集墳の築造年代を知る上で重要な手がかりとなっている。

E 区（付図七参照）

県道家所一阿漕停車場線に面する南西斜面の比較的ゆるやかな尾根先端に小規模な支群を形成する地区である。この地区には二支群が属するのみであり、四〇六基からなる小規模なものである。

この地区は、他の地区と異なり、安濃川流域をのぞむことが全くできず、東斜面に立地する支群とは、その性格を異にするのではないかと考えられる。

四 遺物

今回の分布調査において、採集した遺物として、埴輪片、須恵器片、石器などがある。これらのうち、埴輪片は、丸岡C支群二号埴のものである。この古埴は、土取りのため破壊されているのが踏査中に発見された。止むをえず、散乱していた埴輪片を数十点、須恵器片数点を採集するにとどまった。

。埴輪片

すべて丸岡C支群二号埴から採集したものである。

円筒埴輪片(一七〇二一)

(一七) 須恵質で灰褐色をしている。タガは台形で7mmほど突出している。タガの上下1cmずつは、タガ取り付けの際にナデている。

外面調整としては一次調整でナメハケが施され、二次調整で川西宏幸氏が言われるところのB種ヨコハケ^②が施されている。内面は未調整である。(一八) 黄褐色をしている。タガは(一七)よりも突出しており丁寧で、しっかりとしている。タガの上下1cmずつ余りはタガ取り付けの際にナデている。外面調整は、一次調整でタテハケが施されたあと、二次調整でB種ヨコハケが施されている。内面は調整されていない。(一九) 赤褐色で脆い。タガは、(一七・一八)に比べると突出度が低い。タガの上下は1cmぐらいずつタガ取り付けの際にナデられている。外面調整で一次調整は不明であるが、二次調整は、B種ヨコハケが施されており、内面は未調整である。(二〇) 須恵質の口縁部である。断面を見る限り、(一七)と

は別ものである。外面も内面も同じように、B種ヨコハケが施されている。口縁部はナデで丁寧に仕上げである。(二一) 赤褐色で非常に脆い。底部調整^②が行なわれている。外面調整はおそらく一次調整でタテハケが施され、二次調整は施されていない。内面は未調整である。

形象埴輪片(一三〇一六)

おそらく馬形埴輪の部分であろうと思われる。

。須恵器片(一〇一一)

蓋杯、杯、甕の破片を採集した。一〇九は、細山田東二号埴付近に5m×10mにわたって散布しており、一〇は坂本山古埴群、一一は丸岡C支群二号埴より採集したものである。

蓋杯(一・二)はいずれも頂部が破損しており、口縁部のみ残存している。口縁はナデ調整が行なわれている。胎土は密である。杯(三・六)も、いずれも底部が破損しており、立ち上がりから口縁部が残存しているにすぎない。口縁部にはナデ調整が行なわれている。胎土は密である。甕(七・九・一一)も口縁部しか残存していない。(九)は外面に波状紋があり、(一一)は口縁部外面に沈線がある。また、(七・九)は自然釉がかかっている。胎土は、(九)は砂粒を多く含むが(七・一〇・一一)は密である。(八)は口縁部のみである。口縁はナデ調整が行なわれており、外面に沈線が施されている。以上の須恵器は全て陶邑の第Ⅱ型式の第二段階に属し、六世紀中葉に属するものであろう。

。石器(一一)

三年作A支群二号墳付近から採集した石鏃である。一部欠損しているが、左右両縁辺を片面から調整している。

五 結 語

最後に今回の分布調査結果及び採集遺物から長谷山群集墳に関する考察を述べてみたい。

まず長谷山群集墳の築造年代については、大山田A支群の発掘調査により六世紀後半―七世紀前半の年代があたえられており、中跡山一号墳は、その石室の形態から七世紀前半に位置づけられている。²⁷更に丸岡池C支群の二号墳は底部調整をほどこした円筒墳輪片と馬形埴輪片を出土していることから六世紀前半に比定されると思われる。以上のことから、長谷山群集墳の築造は、六世紀前半から開始され、少なくとも七世紀前半まで及んだであろうことが推測される。さらに、実体が明らかにされないままにすでに盗掘されている古墳が大部分を占めるので断言はできないが、憶測をたくましくすれば、丸岡C支群↓大山田A支群↓中跡山支群という低所から高所への築造パターンが想定されよう。

次に各支群の存在形態についてみると、長谷山群集墳には、一見して分るとおり地域的な偏差がみられる。それは、いうまでもなく大山田A支群や坂本A支群のような大支群の存在である。これらの大支群はさらに、いくつかの小単位支群に分かれるが、それらは偶発的に集まったものではなく、一つの共同体の墓域としてのまとまりを意識して営まれたものと考えられる。さらに、このように他の

支群に比べて、大きな墓域を設定し得たこと及び他の支群にはあまりみられない大きな円墳の存在は、この大支群を形成した集団の優位性をものごたるものである。

最後に、長谷山群集墳が形成される前後の安濃川流域における古墳分布の状況について、従来の見解をふまえつつ長谷山群集墳の位置づけを考えてみたい。

まず五世紀代には安濃川下流域において、池ノ谷古墳、鎌切古墳などの前方後円墳を築造する集団の存在が考えられる。これに対し、中流域には、明合古墳に代表されるように方形墳を築造する集団が考えられる。

ところが六世紀前半になると、両地域の間地点にあたる長谷山附近に、前方後円墳や方墳が集中して出現するようになる。両者の墳丘の差異は前段階の伝統を継承した異質な集団を示すとも考えられるが、この場合、より重要なのは、長谷山附近に集中して古墳が築造される点である。この背景については、現在の知見では明らかにし得ないが、これと時期を同じくして長谷山群集墳が形成され始めることと、何らかの関連性があるのかもしれない。

六世紀後半になると、長谷山群集墳は他地域を圧倒する程の密集を示すようになる。また、当時一般的に見られる横穴式石室の造営も草生周辺、及び片田地区を除き、長谷山群集墳以外にはほとんど見受けられない。これらのことから、長谷山群集墳は、安濃川中下流域の墓域として位置づけられるであろう。

六 終りに

古墳の破壊は、団地造成、土取り、道路建設、開墾等により年々増加をたどっている。長谷山群集墳も例外でなく、全基中約八割が盗掘を受けるか、林道の建設工事、開墾、圃場整備によって破壊を受けている。今回の調査中にも丸岡C支群二号墳が林道工事によって破壊されたのは、非常に残念なことである。

このように文化財は、文化財保護法の意図に反し、しかも調査、記録も施されずに破壊されている。しかし、そのような事態に正しく対処された例も少なくない。このことは、その保存が法令や関係官庁だけの問題でなく、国民全体の問題であり、何故文化財を保存するのかという問題に目を向けなければならないことを物語っているのである。

尚、本稿は、大橋紀元氏の卒論を参考にして、史部会内で討議を行ない31期生が執筆を行なった。

注

- ①『三重の文化』15 三重郷土会一九五八
- ②三重大学教育学部26期大橋紀元氏は、長谷山東麓を調査し、その成果を、『安濃川流域の古墳文化とその歴史的背景―長谷山群集墳を中心に―』（三重大学教育学部卒業論文）にまとめられている。
- ③伊藤久嗣『納所遺跡』三重県教育委員会一九八〇
- ④伊藤克幸・下村登良男『安芸郡安濃村・辻の内遺跡』安濃村遺

跡調査会一九七五

- ⑤小玉道明他『坂本山古墳群・坂本山中世墳墓群』津市教育委員会一九七〇
- ⑥『ふびと』23 一九六五
- ⑦三重大学歴史研究会原始古代史部会『メクスサ四号墳発掘調査報告』津市教育委員会一九七二
- ⑧小田泰正他『堂山一号墳』安濃村教育委員会一九七四
- ⑨吉村利男『近畿自動車道埋蔵文化財調査報告Ⅱ―日余一号墳―』三重県教育委員会一九七四
- ⑩『ふびと』22 一九六四
- ⑪『ふびと』29 一九六八
- ⑫『ふびと』32 一九七五
- ⑬『ふびと』29 一九六八
- ⑭下御供田一号墳は、大橋紀元氏によって発見された。大橋氏によれば、全長四〇・五m、後円部径二五m、前方部不明瞭とされている。（①参照）
- ⑮萱室康光『君ヶ口古墳発掘調査報告』津市教育委員会一九七四
- ⑯村上喜雄『三重県安芸郡安濃村大字山出大名塚古墳について』『三重の文化』37 三重郷土会一九六二
- ⑰昭和三十八年、三重県立博物館により発掘調査がおこなわれた。
- ⑱小玉道明・山沢義貴『久居古窯址群発掘調査報告』三重県教育委員会一九六八
- ⑲萱室康光『津市半田藤谷墳輪古窯址群発掘調査概報』津市教育

⑳岡田 登「三重県津市垂水発見の埴輪窯について―藤形の贅土師部との関連をめぐって―」『皇学館論叢』第15巻第二号

一九八二

㉑石材の散布、及び盗掘拡の形状から判断した。なお、盗掘の際、石材がすべて持ち去られたと考えられる古墳も多い。

㉒大橋紀元氏、前掲①

㉓ ”

㉔連続的なヨコハケで、工具を器壁上で止めながら施したように見えるもの。止めた際の工具痕が縦の条線となって残っている。

㉕丸岡C支群第2号墳から出土した円筒埴輪の底部調整は、川西編年でIV期（5世紀中葉～後葉）の淡輪と、V期（5世紀末～6世紀中葉）の鈴鹿川流域と浜松市でだけ見られる技法である。

この底部調整は明合古墳表採の埴輪片にも見られ、この技法が安濃川流域にまで及んでいることが確認された。川西宏幸「円筒埴輪総論」（『考古学雑誌』64―2 一九七八）

㉖位置は付図2を参照

㉗大橋紀元氏、前掲①

分布調査参加部員

〔30期〕野田修久、山岡幸子、江尻 健、〔31期〕牛田光洋、中瀬充也、前嵐敏文、三浦儀直、岩脇 彰、増地陽一、山本哲史（農学部）〔32期〕福田和憲、榊屋美奈子、米川はるみ、坂本敬子、福森

活動状況

調査年月日	発掘	測量	分布調査	所在
55年 10月～56年3月		長谷山三年作C支群 1、2、3号墳		津市
11月～56年4月			長谷山群集墳	津市、安濃町、美里村
56年 7月～ 7月～8月	津ノ森遺跡	荒木車塚古墳		上野市 熊野市
12月		釜生田古墳群（石室）		嬉野町
57年 3月	正法寺山荘跡		津ノ森遺跡	関町、熊野市
7月～8月	津ノ森遺跡			熊野市
9月～10月	正法寺山荘跡			関町

長谷山群集墳一覽表

A 区

	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
大山田 C	1号墳					消滅
	2					消滅
	3					消滅
	4					消滅
大山田 D	1号墳	100	20			道により半壊
	2	8.0	0.5		○	
	3	8.0	1.3			葺石か
大山田 E	1号墳	11.0	3.5			
	2	11.0	2.8			
	3	10.5	2.0			
	4	11.5	4.0			
	5	8.5	2.2			半壊
大谷	1号墳	17.5	1.8		○	
	2					消滅
	3	8.0	2.3		○	
	4					消滅
	5					消滅
	6	12.0	1.2		○	道のため半壊
	7	9.5	0.8			墳丘不明瞭
	8	10.0	0.3	○	○	道のため半壊
	9					消滅
間ノ谷	1号墳	20.0	1.9		○	
	2	10.0	1.5		○	
	3	10.5				
	4	12.0	1.5		○	
三年作 A	1号墳	12.0	2.0			
	2	7.0	1.2			
	3	10.0	0.6		○	

	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
三年作A	4号墳	110	12			道により半壊
	5	100	16			
	6	10.5	20		○	
	7	110	25		○	
	8	95	20		○	
	9	11.5	3.8	○		
	10	5.5	1.0			
	11	7.5	1.3		○	
	12	8.5	4.0	○	○	
	13	9.0	2.3		○	
	14	4.5	2.0		○	
	15	6.5	1.0	○	○	
	16	8.0	1.6	○	○	
三年作B	1号墳	8.5	1.8		○	完存
	2	8.5	2.4		○	
	3	6.0	2.0		○	
	4	6.0	2.0		○	
	5	8.0	1.6			
	6	6.0	1.5		○	
	7	6.5	1.5			
	8	9.0	1.8			
三年作C	1号墳	17.0	1.7	○	○	半壊 半壊 半壊 石材散布、墳丘不明瞭
	2	20.0	3.7	○	○	
	3	15.0	2.0			
	4	10.5	1.2			
	5	9.0	1.2	○		
	6	12.5	1.7	○		
	7	18.5	3.0	○		
	8	9.0	1.3			
	9					
	1号墳	8.5	1.6			

	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
中ノ谷	2号墳	13.5	1.3			林道のため半壊
	3	13.0	1.2		○	
	4	14.0	1.3	○		
	5	9.0	1.3			
	6	21.5	1.5	○		林道のため半壊
	7	7.5	1.3			
	8	9.5	1.5	○	○	
	9	8.0	1.2			
椋谷	1号墳	10.0	1.5	○		完存
	2	11.5	1.6			
	3	12.5	1.2	○		
	4	9.0	1.1		○	
	5	10.5	2.0		○	
	6	14.0	2.5			
	7	11.0	1.5	○	○	
	8	8.0	0.7		○	
	9	9.0	0.6			墳丘不明瞭
	10	6.0	0.5			
	11	15.5	2.0		○	半壊
	12	8.5	1.0	○		
	13	11.5	1.5			
	14	11.0	1.7			墳丘不明瞭
	15	8.5	1.8			
	16	10.0	1.4			
	17	13.0	1.7		○	
B 区						
細山田	1号墳	9.0	1.4	○		
	2	9.0	1.5		○	
	3	10.0	1.6		○	
	4	8.0	0.6		○	
	5	8.0	1.0	○	○	

	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
細 山 田	6号墳	9.0	0.7	○	○	
	7	7.0	0.8		○	
	8	8.0	2.0		○	
	9	6.0	1.0		○	
	10	9.0	0.8	○	○	
	11	8.0	0.8		○	
	12	12.0	1.6		○	
	13	8.0	1.6	○	○	
	14	11.5	1.3		○	
	15	9.5	1.2		○	
	16	9.0	1.3		○	
	17	9.5	1.6		○	
	18	16.5	3.5	○	○	
	19	13.5	2.0		○	
	20	9.5	1.7		○	
	21	8.5	1.5		○	
	22	8.0	1.5		○	
	23	6.5	1.5		○	
	24	10.0	1.5		○	
	25	10.5	1.7		○	
	26	6.5	0.5		○	
	27	8.0	1.3		○	
	28	7.5	0.5		○	
	29	21.5	3.6		○	
	30	7.5	0.9		○	
	31	8.0	0.8		○	
	32	9.5	1.6		○	
	33	9.0	1.2		○	
	34	12.7	2.3	○	○	
	35	9.0	1.5	○	○	
	36	22.0	4.0	○	○	
	37	15.3	1.5	○	○	
	38	12.5	1.6	○	○	

		古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
丸岡 A	27号墳	15.5	2.5			○	
	28	11.0	1.8			○	
	29	8.5	1.0			○	
	30	11.0	2.0			○	
丸岡 B	1号墳	10.5	1.8			○	
	2	14.0	2.5				全 壊
	3	10.5	1.8				全 壊
	4	7.5	1.5			○	
	5	8.5	1.7				完 存
	6	10.0	1.7				半 壊
	7	17.0	4.0			○	
	8	14.0	2.5				
	9	10.0	0				
	10	9.5	1.2				完 存
	11	10.0	1.8			○	
	12	8.0	0			○	
	13	5.5	0.3			○	
	14	9.5	2.5			○	
丸岡 C	1号墳	11.5	0.5			○	○
	2	10.0	2.5			○	○
坂本 A	1号墳	8.5	1.0			○	
	2	11.0	1.6			○	
	3	6.5	0.5				
	4	7.0	0.6				
	5	11.5	1.8			○	
	6	10.5	1.6				
	7	10.0	2.0			○	
	8	7.0	0.7			○	
	9	6.5	1.2			○	
	10	8.5	1.3				
	11	8.5	0.7			○	
	12	8.0	0.6			○	
	13	10.0	1.3			○	

	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考	
坂	47号墳	13.2	2.0		○	葺石	
	48	11.7	2.0		○		
	49	11.2	1.4	○	○		
	50	11.0	1.8		○		
	51	11.4	0.4		○	全壊	
	52	7.0	0.6		○	全壊	
	53	5.5	0.4		○	全壊葺石	
	54	10.2	1.6		○		
	55	12.0	1.0		○		
	56	20.0	2.5		○		
	57	9.8	1.3	○	○		
	58	12.4	1.6	○	○		
	59	7.2	0		○		
	60	9.5	0.5		○	全壊	
	61	10.4	1.6		○		
	62	16.4	2.4	○	○	葺石	
	本	63	17.0	1.8		○	
		64	9.8	1.6		○	
		65	6.0	1.4		○	
66		9.5	1.5	○	○		
67		12.0	0.7		○		
68		8.0	1.1		○		
69		10.0	0.8	○	○		
70		13.3	2.3		○		
A		71	7.2	0		○	
		72	6.0	1.0		○	
		73	12.3	2.0	○	○	
		74	6.0	1.0		○	
		75	10.0	1.0		○	
		76	15.0	2.0		○	
		77	10.0	1.0		○	
		78	6.0	1.2		○	
		79	9.1	1.0		○	

	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
坂本A	80号墳	12.0	1.3		○	
	81	6.9	1.2		○	
	82	6.0	0.5		○	
	83	8.2	0.5		○	
	84	11.0	2.0		○	
	85	14.0	2.3		○	
	86	19.0	5.0		○	
	87	8.0	0.8		○	
	88	20.0	5.5	○	○	
	89	17.0	2.6	○	○	
	90	14.0	2.0		○	
	91	18.0	3.2		○	
	92	10.0	2.5		○	
	93	13.0	2.0	○	○	
	94	7.0	0.8		○	
石仏	1号墳	9.4	1.3		○	
	2	10.0	1.0		○	
	3	10.8	0.6		○	
	4	14.0	1.9		○	
	5	9.3	0.4		○	
	6	11.0	1.5		○	
	7	12.1	2.0		○	
	8	14.0	1.5	○	○	
	9	14.8	1.6		○	
	10	8.5	1.2		○	
	11	6.5	0.5	○	○	
	12	8.2	1.0		○	
	13	8.2	1.0		○	
大山田A	1号墳	19.0	2.0		○	墳土の輪郭のみ残す。
	2	12.5	1.2		○	
	3	20.3	1.6	○	○	
	4	16.9	1.2	○	○	
	5	10.8	1.4		○	

		古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
大山田A	6号墳	22.3	2.5			○	葺石
	7	10.0	1.1				
	8	8.5	1.8				
	9	13.0	2.0				
	10	8.5	1.3			○	
	11	11.0	1.4			○	
	12	9.5	1.0			○	
	13	6.0	1.0				
	14	12.6	1.7			○	
	15	6.4	1.2				
	16	8.5	1.5			○	水路で半壊 水路で半壊、21号の造り出しか？
	17	8.8	1.7			○	
	18	14.5	2.5			○	
	19	10.0	1.5			○	
	20	8.0	1.5				
	21	19.5	3.5			○	
	22						
	23	9.6	1.4			○	
	24	12.8	1.1			○	
	25	28.0	5.0			○	
	26	5.4	0.8				墳丘不明瞭
	27	6.3	1.5			○	
	28	9.2	1.6			○	
	29	5.4	0.8				
	30	17.0	1.0			○	
	31	14.8	2.7			○	
	32	6.9	1.2			○	
	33	14.0	2.0			○	
	34	10.8	1.6				須恵器片出土
	35	15.2	2.5			○	
	36	14.4	2.7			○	
	37	14.0	2.0				
	38	14.0	2.0				
							消滅『三重の文化』15 (43号墳に相当)
							消滅『三重の文化』15 (42号墳に相当)

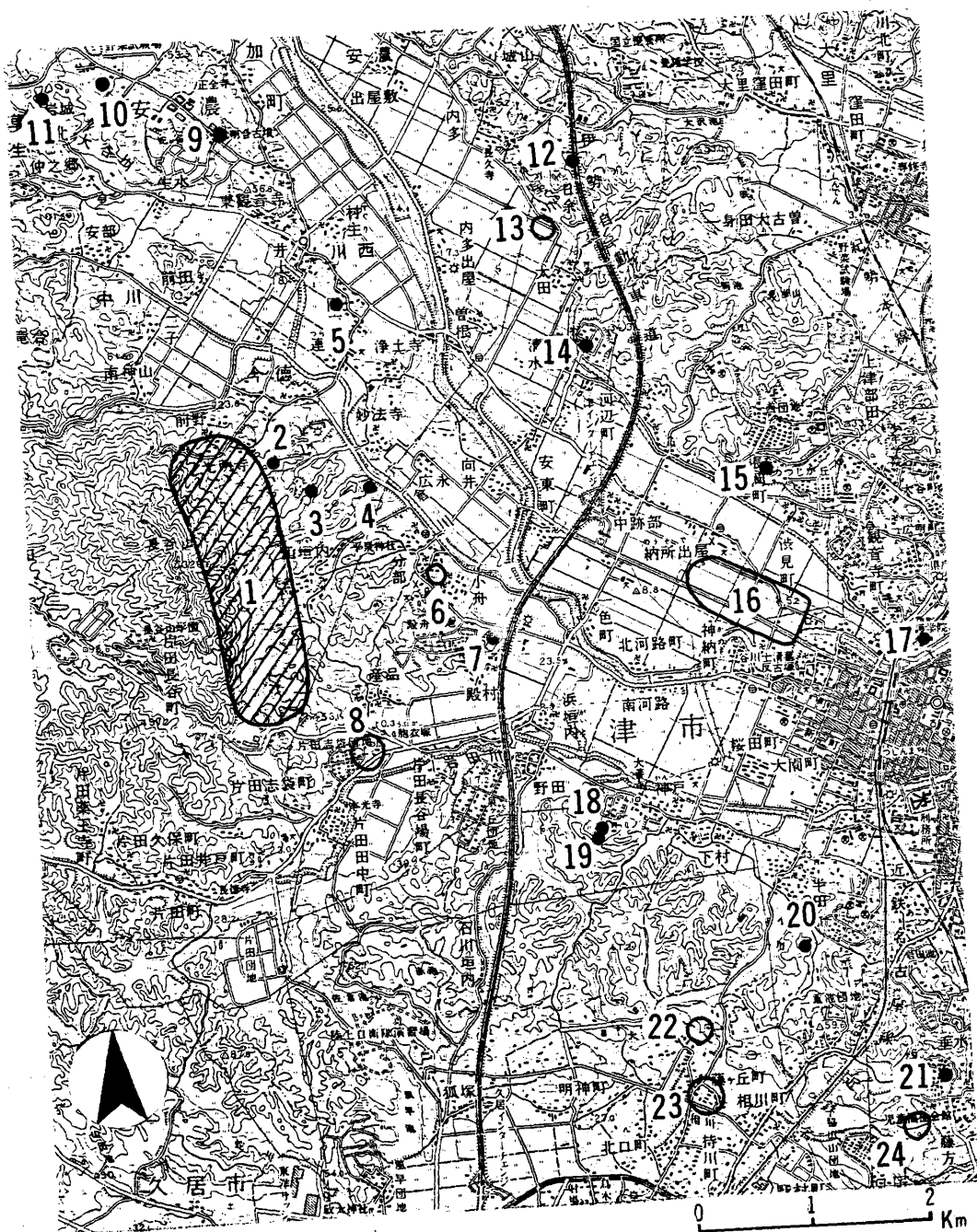
	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
大山田A	39号墳	5.0	0.6			
	40	8.1	0.7			
	41	8.0	1.0			道により半壊
	42	9.3	0.7		○	墳丘不明瞭
	43	8.8	1.6			
	44	9.4	1.2		○	
	45	6.5	1.0		○	
	46	5.5	0.9			墳丘不明瞭
	47	8.0	1.0			
	48	14.0	1.8		○	
	49	13.0	2.0			
	50	8.5	1.1		○	
	51	9.0	0.8		○	
	52	10.0	1.4		○	
	53	11.0	2.5		○	
	54	18.5	3.6		○	
	55	17.8	4.2		○	
	56	11.0	1.7		○	輪郭のみ残る
	57	10.3	1.9	○	○	消滅。『三重の文化』15（40号墳に相当）
	58	7.6	1.2		○	
	59	8.5	1.0		○	
	60					消滅。『三重の文化』15（39号墳に相当）
	61	5.3	0.7		○	
	62	10.0				消滅。かつて多数の須恵器が集中して出土。 『三重の文化』15（34号墳に相当）
	63	6.4				
	64	7.0	0.5		○	
	65	11.5	2.0		○	
	66	13.5	1.1		○	道で半壊。
	67	15.0	1.0		○	消滅。
	68	10.0	1.0	○		かつて石室残存。『三重の文化』15（24号墳に相当）
	69	13.5	0.9		○	
	70	6.0	0.4		○	
	71	5.5	0.5		○	輪郭のみ残る。

	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
大山田A	72号墳			○		消滅。昭和32年発掘。『三重の文化』15(7号墳に相当)
	73	13.0	1.1		○	
	74	9.5	1.0			
	75	7.1	1.2			
	76	8.8	1.8			
	77	8.6	1.5		○	
	78	12.5	1.7		○	
	79	7.3	0.4			
	80	11.0	2.9		○	
	81	16.0	2.9		○	
	82	7.5	1.1	○	○	道で半壊。
	83	7.5	1.5		○	道で半壊。
	84	13.8	1.7		○	
	85			○		消滅。昭和32年発掘。『三重の文化』15(5号墳に相当)
	86	12.0	2.0	○		石室残存。昭和32年発掘。『三重の文化』15(20号墳に相当)
	87	6.5	1.6			
	88					消滅
	89					消滅
	90	7.0	1.2	○	○	墓地により半壊。
	91	6.0	1.0	○		
	92	4.8	0.4			
	93	5.8	1.0			
	94	8.0	0.8		○	
大山田B	1号墳	8.5	1.6		○	東部に墳丘の輪郭
	2	17.0	3.0		○	
	3	18.0	3.0		○	
	4	11.0	1.5		○	
	5	8.5	1.0		○	
	6	8.0	1.1		○	

	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
C 区						
南 神 山 A	1号墳	22.0	2.0	○	○	
	2	18.3	1.7	○	○	
南 神 山 B	1号墳	15.0	2.5			南側くずれている
	2	10.0	1.8			西側くずれている
	3	13.5	3.4	○	○	
光 明 寺 B	1号墳	6.5	0.6			
	2	9.0	1.3			
	3	9.0	1.3			
	4	14.0	2.5			
	5	14.0	1.8	○	○	
光 明 寺 C	1号墳	15.5	2.5		○	
	2	11.7	2.0			
	3	12.4	2.0			
前 野	1号墳	8.0	0.6			墳丘平坦
	2	8.5	0.8			
	3	11.5	1.0			
	4	6.0	0.6			墳丘不明瞭
石 ノ 下	1号墳	12.5	3.0			
	2	10.0	2.0			
	3	7.4	1.0			
	4	6.8	2.0		○	
	5	9.8	2.0	○		
	6	9.3	1.6		○	
	7	13.4	2.0	○	○	
	8	5.5	2.0			
青 谷	1号墳	7.0	1.4	○	○	
	2	12.0	2.1			
	3	12.2	1.4		○	
	4	10.5	1.4	○	○	
	5	12.8	1.6		○	

	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
青 谷	6号墳	11.7	1.2	○	○	
	7	9.2	1.3	○	○	
	8	11.5	1.3		○	
	9	6.3	1.3	○	○	
	10	10.2	2.2	○	○	
	細山田北	8.0	1.7		○	
D 区						
高 塚	1号墳	9.5	1.2	○	○	石 材
	2	10.0	1.5	○	○	石 材
光 明 寺 A	1	12.9	1.4		○	
	2	15.9	1.6	○	○	
	3	15.0	2.1		○	
	4	9.0	1.8		○	
	5	13.0	2.5	○	○	
	6	12.0	1.7		○	
	7	13.5	1.8		○	
	8	12.0	1.9		○	
	9	7.0	0.8		○	
	10	8.5	1.3			
	11	14.5	2.9		○	
	12	10.0	1.9		○	
	13	17.5	1.8		○	
	14	9.0	1.2	○	○	
	15	7.5	0.4		○	
	石ノ下西	14.5	1.5		○	道のために半壊
中 跡 山	1号墳	12.7	2.3	○	○	
	2	8.1	2.2	○	○	
	3	13.3	2.0	○	○	
	4	9.5	2.8	○	○	
	丸岡西	10.0	0.5	○	○	
坂本B	1号墳	18.0	1.7		○	

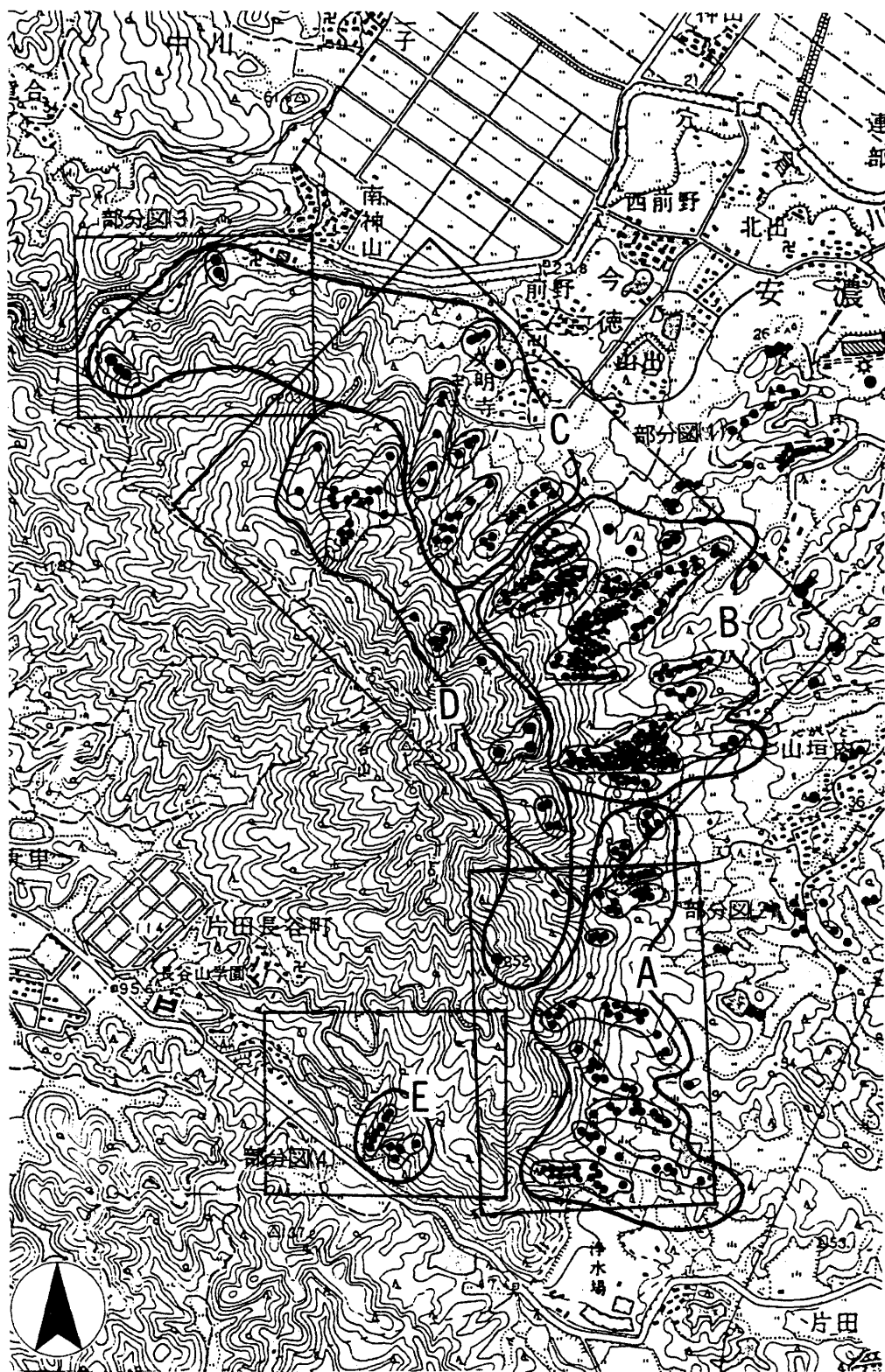
	古墳名称	径(m)	高(m)	石室	盗掘	備考
坂本 B	2号墳	18.0	3		○	
	3	12.5	1.5		○	
大山田 F	1号墳	11.5	1.8			
	2	12.0	1.4	○	○	石 材
	3	10.5	2.5		○	道のため半壊
	4	15.0	2.0		○	石 材
	大谷西	12.5	2.6	○	○	石 材
教副	1号墳	17.8	2.0	○	○	
	2					未確認
E 区						
東 谷 A	1号墳	8.5	2.0		○	
	2	6.0	0.5		○	
	3	8.0	0.8		○	
	4	10.0	2.0	○	○	石 材
東 谷 B	1号墳	12.4	2.0		○	
	2	12.4	2.0	○	○	石 材
	3	13.4	2.0	○	○	
	4	12.4	1.0			葺 石
	5	12.0	1.8		○	
	6	9.6	1.2			墳丘不明瞭



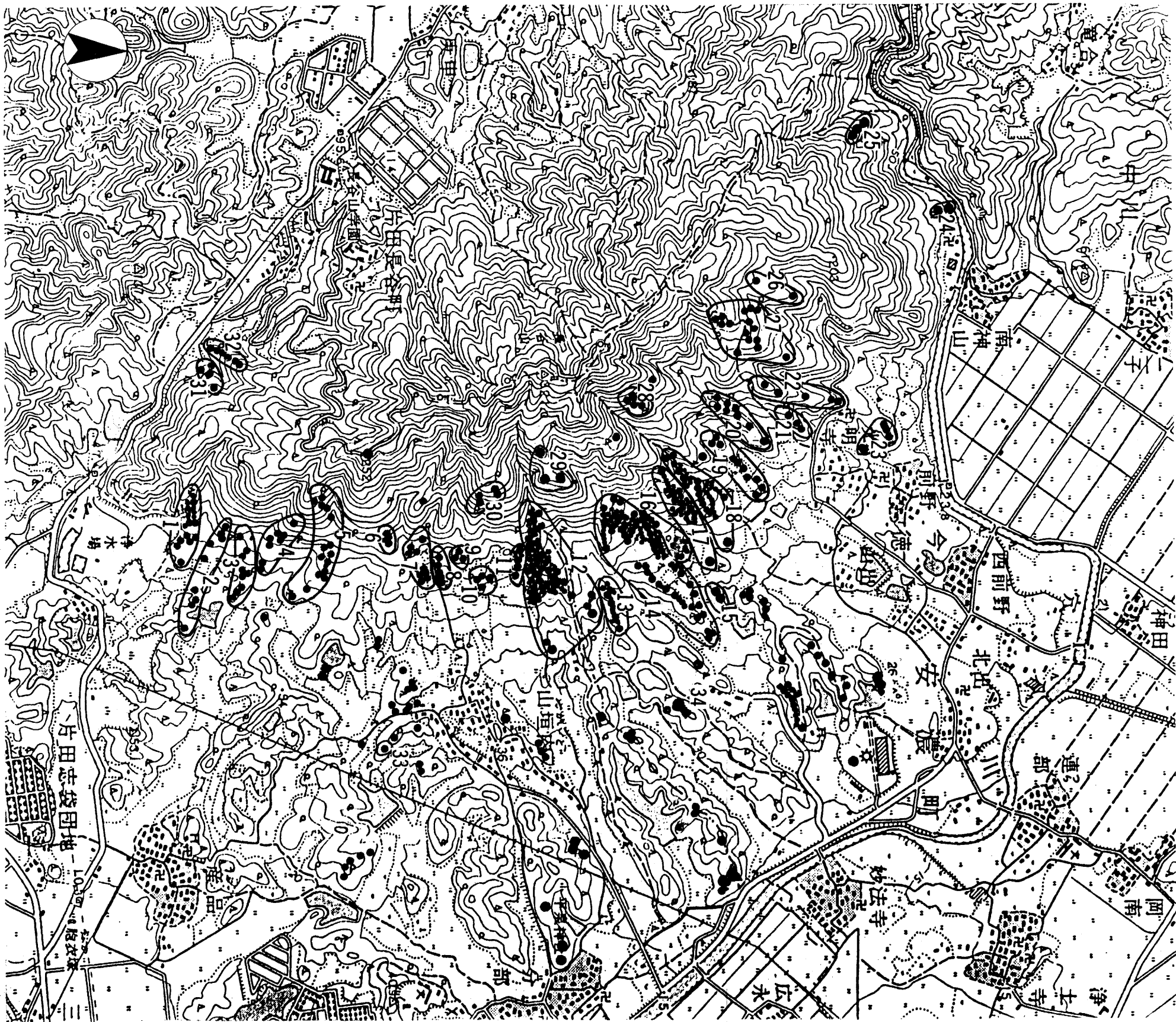
(国土地理院 5万分の1 津西・津東)

付図1 安濃川流域の主要古墳

- ①長谷山群集墳 ②平田A-5号墳 ③下御供田1号墳 ④御屋敷跡13号墳 ⑤岡南4号墳
 ⑥メクサ古墳群 ⑦殿村1号墳 ⑧坂本山古墳群 ⑨明合古墳 ⑩中相野古墳 ⑪四反田1号墳
 ⑫日余1号墳 ⑬辻の内遺跡 ⑭堂山1号墳 ⑮君ヶ口古墳 ⑯納所遺跡 ⑰鳥居古墳
 ⑱鎌切1号墳、3号墳 ⑲おこし古墳 ⑳口蓮池古墳 ㉑池の谷古墳 ㉒藤谷墳輪窯址
 (㉓久居古窯址) (㉔方ヶ広墳輪窯址)



付図2 長谷山群集墳ブロック図及び部分図範囲



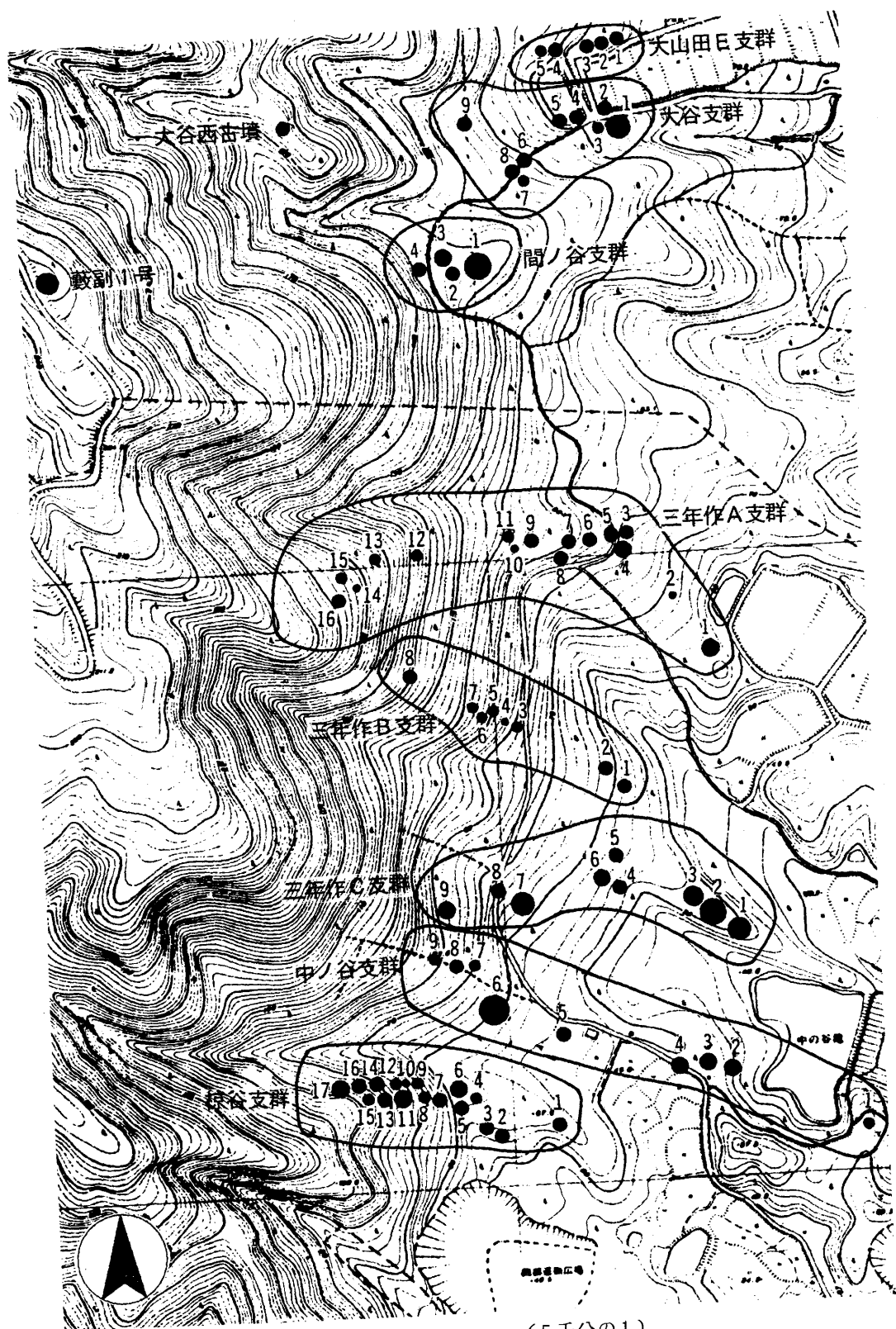
付図3 長谷山群集墳位置図

(国土地理院2万5千分の1 津西部)

- ① 棕谷支群 ② 中ノ谷支群 ③ 三年作C支群 ④ 三年作B支群 ⑤ 三年作A支群 ⑥ 間ノ谷支群 ⑦ 大谷支群 ⑧ 大山田E支群 ⑨ 大山田D支群
 ⑩ 大山田C支群 ⑪ 大山田B支群 ⑫ 大山田A支群 ⑬ 石仏支群 ⑭ 坂本A支群 ⑮ 丸岡C支群 ⑯ 丸岡B支群 ⑰ 丸岡A支群 ⑱ 細山田A支群
 ⑲ 青谷支群 ⑳ 石ノ下支群 ㉑ 光明寺C支群 ㉒ 光明寺B支群 ㉓ 光明寺A支群 ㉔ 東谷A支群 ㉕ 東谷B支群 ㉖ 細山田東遺物散布地 ㉗ 下御供田1号墳
 ㉘ 中跡山支群 ㉙ 坂本B支群 ㉚ 大山田F支群 ㉛ 東谷A支群 ㉜ 東谷B支群 ㉝ 細山田東遺物散布地 ㉞ 下御供田1号墳 ㉟ 高塚支群 ㊱ 丸岡A支群 ㊲ 丸岡B支群 ㊳ 丸岡C支群 ㊴ 丸岡D支群 ㊵ 丸岡E支群 ㊶ 丸岡F支群 ㊷ 丸岡G支群 ㊸ 丸岡H支群 ㊹ 丸岡I支群 ㊺ 丸岡J支群 ㊻ 丸岡K支群 ㊼ 丸岡L支群 ㊽ 丸岡M支群 ㊾ 丸岡N支群 ㊿ 丸岡O支群 ㊽ 丸岡M支群 ㊾ 丸岡N支群 ㊿ 丸岡O支群

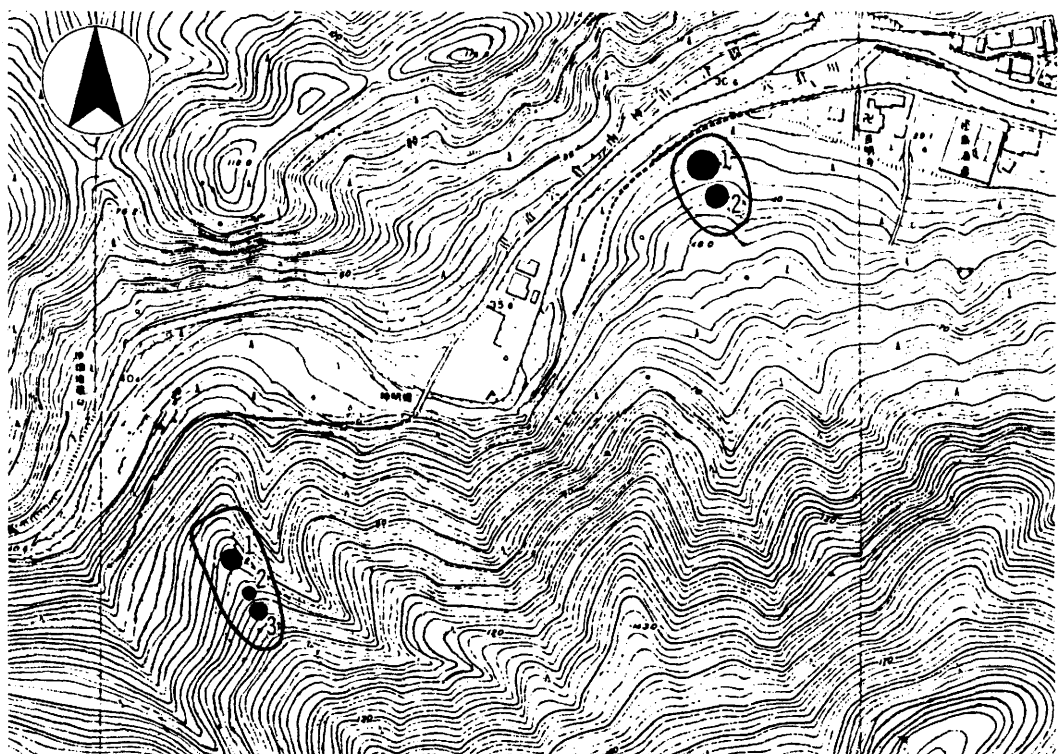


付図4 長谷山群集墳部分図 (1)
(5千分の1)



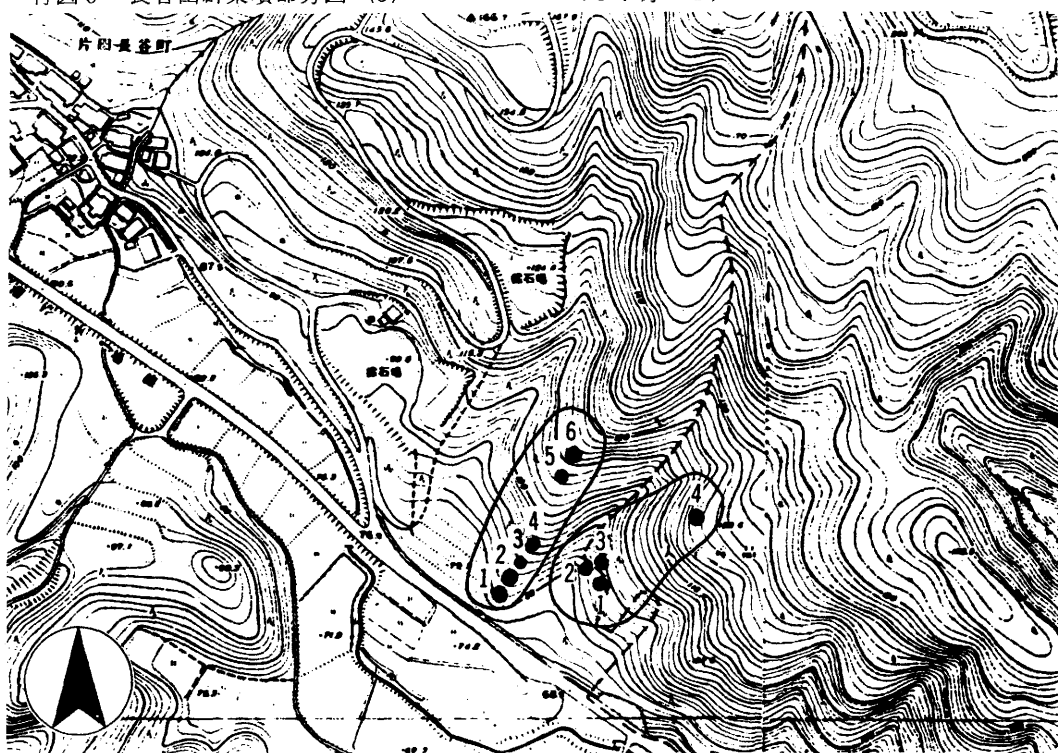
付図5 長谷山群集墳部分図 (2)

(5千分の1)



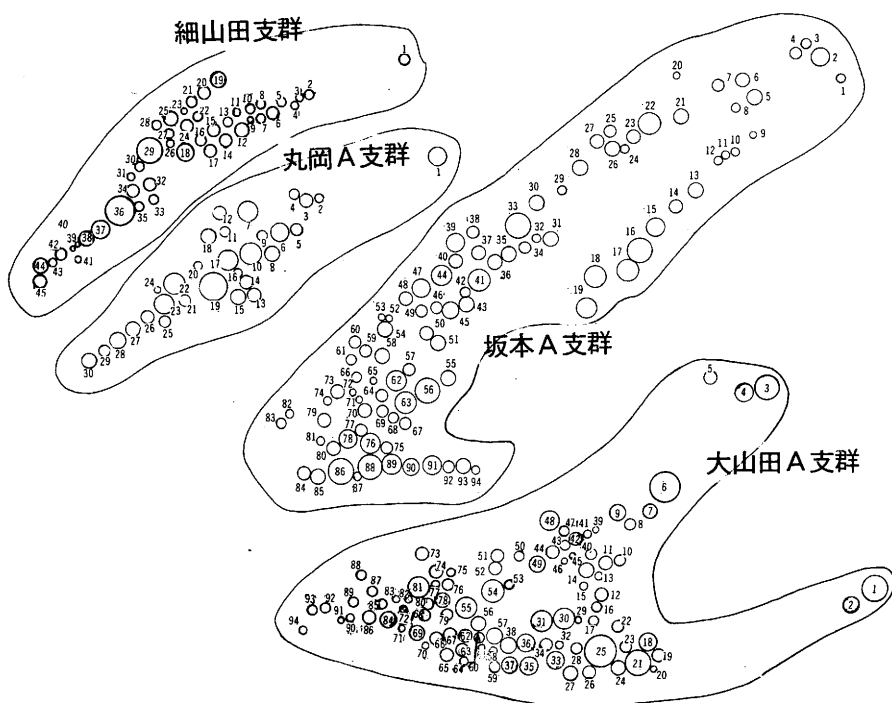
付図6 長谷山群集墳部分図 (3)

(5千分の1)



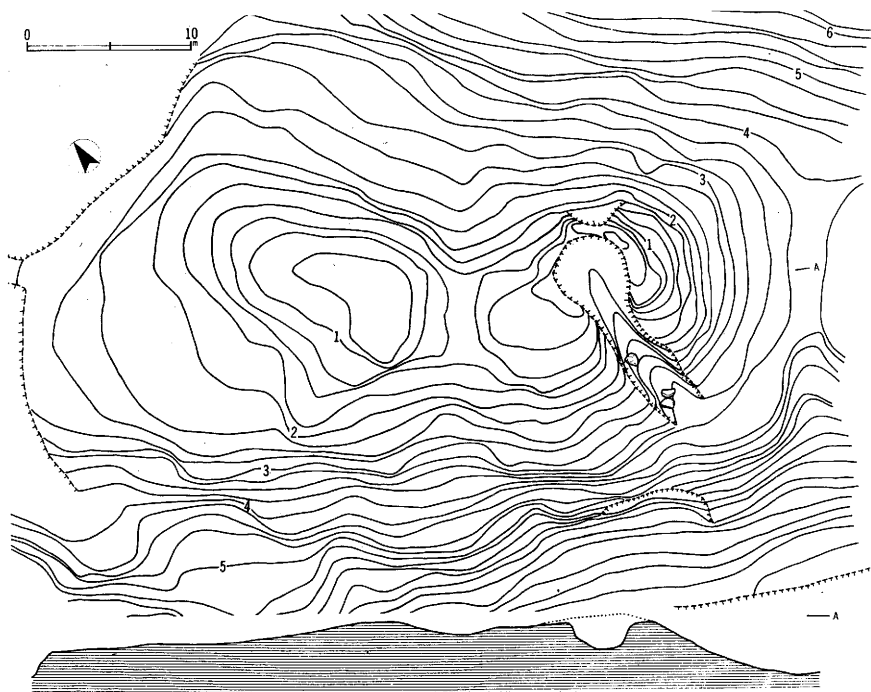
付図7 長谷山群集墳部分図 (4)

(5千分の1)



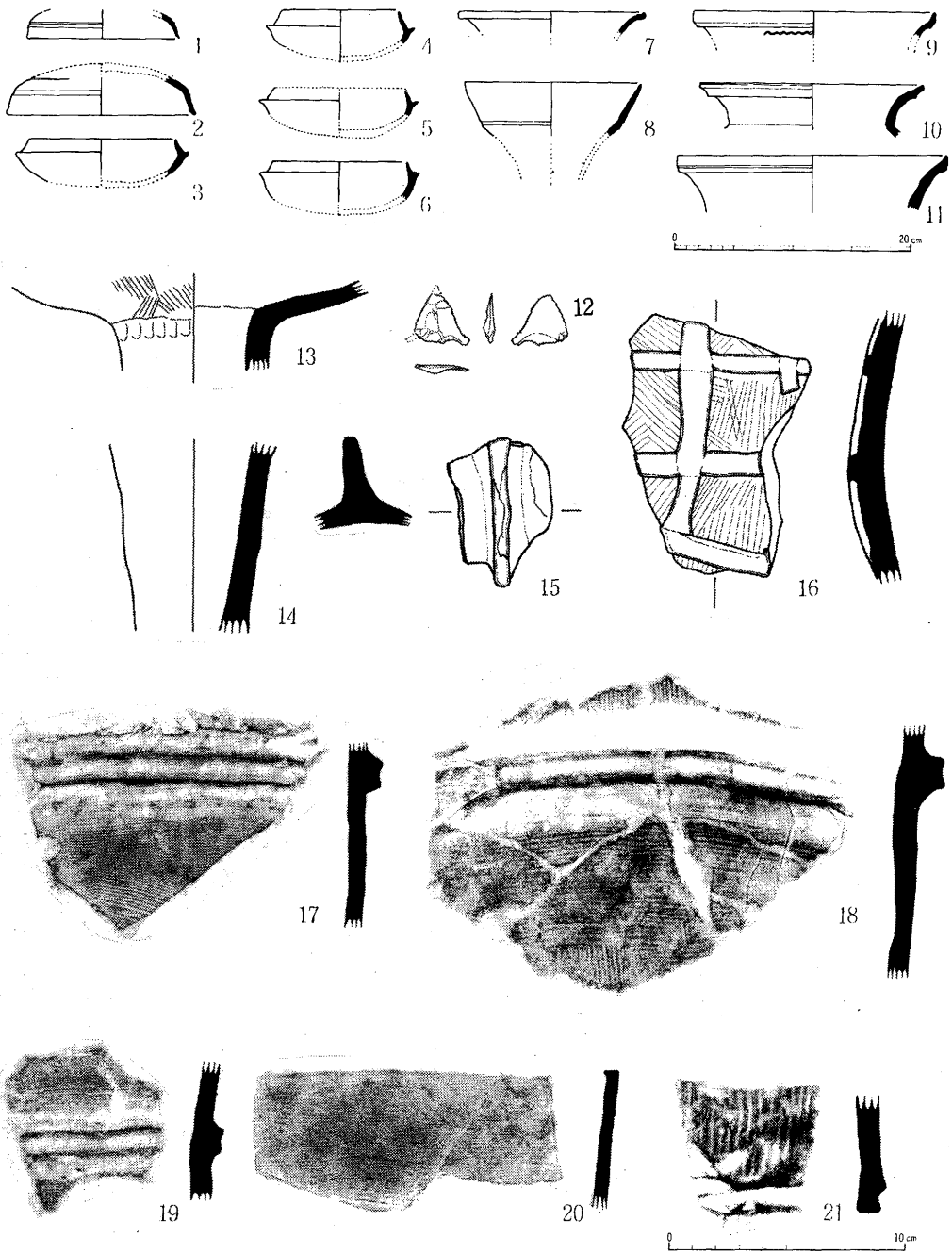
付図8 大支群古墳番号図

(5千分の1)



付図9 三年作C支群2号墳、3号墳実測図

(400分の1)



付図10 須恵器実測図 (1/4)

石器・埴輪実測図 (1/2)